



ます。

# 読者の視点

食料安全保障の観点から「食料」の確保が重要であることは、自国産品の生産を促進する観点から、政府は「食料」の確保を重視している。その中でも、食料の確保は、食料の生産と消費のバランスを確保することによって実現される。そのためには、食料の生産と消費のバランスを確保することによって実現される。そのためには、食料の生産と消費のバランスを確保することによって実現される。

## 気がつけばEU基準

### 崩れる日本の「食」安全神話

EU基準が日本産食品に適用されることになり、日本の「食」安全神話が崩れる。EU基準は、日本の食品基準よりも厳格であることが多く、日本の食品基準をEU基準に合わせる必要がある。これは、日本の食品産業にとって大きな課題である。EU基準は、日本の食品基準よりも厳格であることが多く、日本の食品基準をEU基準に合わせる必要がある。これは、日本の食品産業にとって大きな課題である。

EU基準は、日本の食品基準よりも厳格であることが多く、日本の食品基準をEU基準に合わせる必要がある。これは、日本の食品産業にとって大きな課題である。EU基準は、日本の食品基準よりも厳格であることが多く、日本の食品基準をEU基準に合わせる必要がある。これは、日本の食品産業にとって大きな課題である。

EU基準は、日本の食品基準よりも厳格であることが多く、日本の食品基準をEU基準に合わせる必要がある。これは、日本の食品産業にとって大きな課題である。EU基準は、日本の食品基準よりも厳格であることが多く、日本の食品基準をEU基準に合わせる必要がある。これは、日本の食品産業にとって大きな課題である。

(編集委員 大田昌弘)

## 2) 提言

1988年、クリントン大統領の提言として、アメリカの各種の規格を統一化することが在りました。この結果、ANSI (American National Standard Institute) がいろいろの規格を傘下に収めるというような格好になりました。

いくつもの国で似たようなことが行われています。

ISO	International Organization of Standard
AFNOR	Association Francaise Normalisation Standard
ANSI	American National Standardization Institute
BS	British Standard
DIN or DN	Deutsche Institute Norm
EN	European Norm
JIS	Japanese <b>Industrial</b> Standard (Japanese Association of Standardization)

この中で日本だけが**工業規格**という意味を持っています。もともとの工業規格には業界取引者同士の話し合いという意味があったし、今でもJISのなかには、このような意味合いの含まれているような言葉、が混じっていることがあります。どこの国も昔からの伝統を引きずって、難しい変革を行っているようですが、日本も、日本規格協会の言葉の通り日本の全体、全領域の規格を取り扱うと言う意味でJS (日本規格) に変えてはいかがでしょうか? そのほうが、新しくこの領域に関与を始めようという人々には理解がしやすいと思います。今まで、散乱していた、いろいろの領域をまとめるのにも都合ではないでしょうか?。

## 3) 企画1 e-Library

今回には間に合いませんでしたが、SABSにDigital Library (e-Library)を設置することを進めています。過去の主としてバイオテクノロジーに関するいろいろの委員会報告などが中心となると思いますが(なるべく広い領域を考えて、なるべく広いカテゴリーの出版物を含めて)、ホームページの中、あるいは、CD-ROMの形で保存していきたいと思っています。社員の方々には、無料で頒布することを考えています。(経済的な都合がありますので、何個まで、という制限を付けなければなりません。。。現在考慮中です。ご意見をください)。

本年度はこのような手続きが出来ませんでしたので、こちらで適当に見計らった5種類の

CD-ROM を送らせていただきます。

## 4) 企画 2 Biotechnology ハンドブック

過去に JIS ハンドブックのなかにバイオテクノロジーのものを提案したこともありましたが、あまり売れそうもないし、ということで環境ハンドブック、あるいは、最近の医療機器ハンドブックの後塵を拝することとなってしまいました。

来年度くらいは、世界の規格の中でバイオテクノロジー関係のものがどのくらいあるのか、項目だけでも集めた CD-ROM と考えています。

以上、メールマガジンの発刊に寄せていくつかの項目について記しましたが、出来れば一ヶ月に一報をお届けすることを考えています。

上記の各項目のさらに詳しい報告も含めて、いろいろの項目について記述していきたいと思っています。いろいろのご意見、ご批判なり下記の宛名にメールをいただければ、と思います

\*\*\*\*\*

奥山 典生

東京都立大学(首都大学東京)名誉教授

(株) プロテイン テクノス インスティテュート

t&f 045-981-9455

E-mail ① [protein-tech-inst@g01.itscom.net](mailto:protein-tech-inst@g01.itscom.net)

② [OkuyamaTsu99@aol.com](mailto:OkuyamaTsu99@aol.com)

\*\*\*\*\*